



2025 オンライン 語り部 LIVE

東日本大震災から15年を迎える中、当時を知らない子どもたち、幼かった子どもたちも小学生・中学生・高校生と成長しています。日本赤十字社宮城県支部は、JRC加盟校の子どもたちに被災地の想いを繋ぎ、災害発生時には自分のいのちをしっかりと守ることができるよう公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働して、

語り部さんの声をZoomで配信します。

語り部LIVEの様子はこちら!



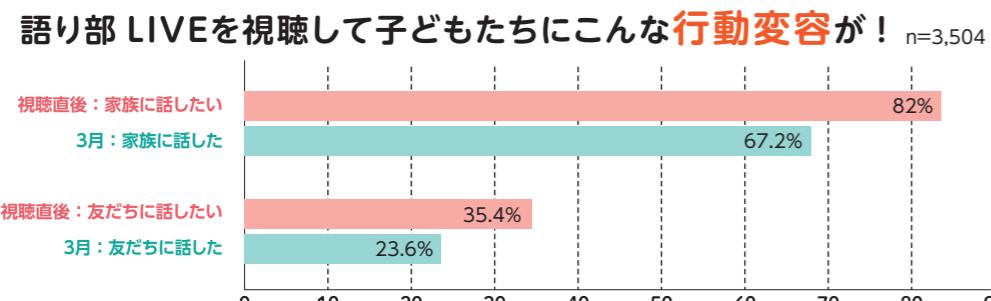
東北大大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授もJRC語り部LIVEを推薦!

防災教育のコツは「災害を我がこととして考えてもらう」ことにあります。その効果的な方法のひとつが、語り部さんから体験を聞くことで、災害を「追体験」「疑似体験」することです。ぜひ、ご参加いただき災害を乗り越える力を身につけましょう。

※参加する子どもたちへのアンケート調査の設計・分析で日赤と連携しています。



2021年～2024年度の調査結果



語り部さんのお話を聞いた直後に「誰かに話したい」と思っていた子どもたちの多くが実際に語り部さんから聞いたお話を家族や友達に伝えています



子どもたちが災害を自分事として考えられる!



全国のJRC加盟
小学校～高校と一緒に視聴できる!



感想用紙で
「自分の言葉にする」
振り返りができる!

JRC語り部LIVEを取り入れた防災教育例

岐阜県 恵那市立明智中学校

当校では、毎月1回、10分程度の防災に関する学習を継続しています。また、毎年、JRC語り部LIVEに参加しており、生徒の防災意識は大変高いです。加えて、防災士を招いた防災学習により、地域の危険な場所や対応方法など具体的に学んでいます。



神奈川県 湘南学院高等学校

語り部LIVEに毎年参加し、防災への備えや身近な人の対話の大切さを学びました。その学びから市内で開催される赤十字防災運動会にも参加し、世代を超えた交流を楽しみながら、防災について地域で考える活動に繋げています。



鹿児島県 徳之島町立亀徳小学校

本校ではオンライン語り部LIVEへの参加や避難訓練に加え、災害発生の仕組みや防災知識についてクイズや話し合い等で学び、理解を深めています。消防署や社協と連携した体験活動も行い、学んだことを地域に発信する防災学習発表会も実施しています。



青少年赤十字
防災教育プログラム
「まもるいのち ひろめる
ぼうさい」も
ぜひご活用
ください!



子どもたちの感想

私は大きな地震にあったことはないけれど、いつ地震が起きるか分からないので、家族で話し合いをしたり、じゅんびをしておきたいと思いました。(小学生)

命は自分一人のためだけにあるのではなく、みんなのためにあるものだと感じました。(中学生)

「自分は大丈夫。」などと油断することが危険だと知りました。(高校生)

先生方のご感想

語り部さんの体験を聞き、自分にも起こり得ることだと感じることができたようです。(小学校の先生)

語り部さんの後悔やその瞬間の思いも聞かせていただき、今後の防災学習にもつながる時間になりました。(中学校の先生)

参加校 参加者数*

*年度により、時間・
参加条件が異なるため、
参加校・参加者数は
のべ数です。

語り部さんのお話を多くの子どもたちに聞いてもらい、子どもたちが学校、家庭、地域で語り手となり、いのちを守ることを期待しています!

2020年～2024年度…全国395校 30,000人が参加!!



津波と原発事故の経験から未来へ

- 伝えるポイント
・津波の被害と原子力災害
・発見までの5年9ヶ月

2月5日(木) 13:30~14:10 中学生

2月5日(木) 16:15~16:55 高校生

木村 紀夫 きむら のりお

1965年、福島県大熊町生まれ。東日本大震災の津波で家族3人を亡くし、更に原発事故によって捜索が阻まれる。次女汐凪(ゆうな)の遺骨発見までに5年9ヶ月を要し、いまだその8割は見つかっていない。そんな経験から「防災」と「豊かさへの疑問」について考える伝承を続けている。大熊未来塾代表

災害から命を守るために知りたいこと

- 伝えるポイント
・住んでいた地域の被災状況
・震災直後の息子の避難行動

2月13日(金) 11:00~12:00 小学校3.4年生

2月19日(木) 16:00~17:00 高校生

高橋 正子 たかはし しょうこ

震災当時、海に近い自宅に高校生の息子と義理の母がいた。大津波警報が防災無線から聞こえないなか、家族とは連絡が取れず、道路は寸断され自宅に戻ることはできなかった。翌日、地区全体が津波に襲われ自宅も含め流出したことを見た。2016年より地区的裏山に逃げた息子の様子がわかる絵本「なべのなった鐘」を用いながら伝承活動を続けている。

子ども達と3.11

- 伝えるポイント
・友達を失った息子の痛み
・117の大切さ

1月20日(火) 13:30~14:10 中学生

2月12日(木) 11:00~12:00 小学校5.6年生

石川 芳恵 いしかわ よしえ

東日本大震災の13年前に石巻市に家族で移り住む。3月11日の午前中は中学生の息子の卒業式だった。地震後は、地域の小学校の校庭に家族で避難したが直前に家でた大学生の娘とは1週間以上連絡がとれなかった。震災後しばらくの間、震災を直視できずに生きてきたが、遺族となつた友人との交流から、語り部になろうと決意する。

あいりちゃんからの命のメッセージ

- 伝えるポイント
・母の悲しみ
・何気ない日常の大切さ

1月14日(水) 11:00~11:40 小学校3.4年生

1月14日(水) 13:30~14:10 小学校3.4年生

佐藤 美香 さとう みか

2006年に勤務した石巻市へ引っ越し、震災時は自宅で次女(3歳)と過ごしている時だった。長女(6歳)は高台の私立幼稚園にいたため安心していたが、その管理下で犠牲に。震災後は、「日和幼稚園遺族有志の会」を立ち上げ全国への発信を続けています。紙芝居「あいりちゃんからの命のメッセージ」を用いた伝承活動と共に、2024年に絵本「2人の天使にあったボク」を出版。

3.11無くしたくない記憶を語る

- 伝えるポイント
・震災当時のこと
・震災直後から今まで、どんな気持ちで過ごしたのか
・震災を経験した私が伝えたいこと

1月29日(木) 13:30~14:10 小学校3.4年生

2月17日(火) 13:30~14:30 中学生

西城 楓音 さいじょう かざね

宮城県石巻市出身・在住。震災当日は小学校2年生。学校から帰宅し自宅にいる時に被災。自宅に水は来たものの2階に避難することで自身は難を逃れる。津波は直接見ておらず、避難所生活も経験はしていないが、津波・火災で当時幼稚園に通っていた6才の妹を亡くす。2021年夏から語り部として震災の伝承活動を始める。

小・中学生にできること、やるべきこと

- 伝えるポイント
・災害が起きる前にできる備え
・自分の命を守るためにできること
・防災教育を受ける側の視点から見た防災教育の重要性

1月29日(木) 11:00~11:40 小学校3.4年生

2月19日(木) 13:30~14:30 中学生

菊池 のどか きくち のどか

釜石東中学校 2年生の時に、防災担当の整美委員長となる。3年生の3月11日に東日本大震災が発災し、隣接する小学校の児童とともに避難する。その経験をもとに、2019年4月より、いのちをつなぐ未来館職員として語り部・ガイドを行なう。2021年5月に誰でもわかる取り組みができる防災教育の推進を目指し、神戸出身の2人の仲間とともに株式会社8kurasuを立ちあげ、現在は結乃社中に所属し語り部として活動中。

あの日の記憶と心情の変化

- 伝えるポイント
・あの日の記憶
・伝承団体を立ち上げた経緯
・語り部の大切さ

1月15日(木) 11:00~11:40 小学校5.6年生

2月13日(木) 13:30~14:30 小学校3.4年生

若生 遥斗 わこう はると

宮城県七ヶ浜町で小学校2年生の時に被災をして、その後中学卒業後に「きずなFプロジェクト」という震災伝承団体を立ち上げ、七ヶ浜を拠点に自作の紙芝居を県内の小・中学校に上演を行なったり語り部活動をしている。当時からの気持ちの変化や語り部をする大切さを伝えている。

社会人になる前に、知っておきたいこと!

- 伝えるポイント
・息子のいのちからの学び
(企業・組織防災)
・いのちが一番、人生の歩み方

1月20日(火) 16:00~16:40 高校生

2月17日(火) 16:00~17:00 高校生

田村 孝行 たむら たかゆき

東日本大震災の津波により、銀行という企業管理下で当時25歳の息子を亡くした。いのちの大切さや、安全な社会に向けてどうあるべきか、息子・健太より多くの事を学んだ。この学びを次世代へ繋げるために、いのちを守る防災講演(企業・組織防災)・いのちの学習の講演をし、命のバトンを渡す活動を続けている。

災害時の“ダメな”お手本

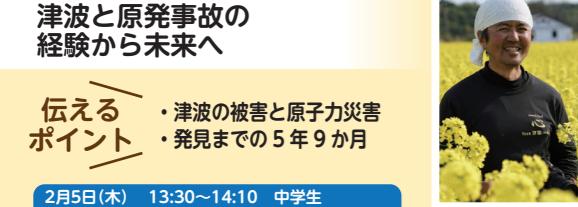
- 伝えるポイント
・津波避難の大切さ
・非常時の判断の難しさ

1月15日(木) 13:30~14:10 小学校5.6年生

1月22日(木) 16:15~16:55 高校生

阿部 任 あべ じん

震災時は高校一年生。石巻市門脇町の実家で祖母と2人の時だった。裏山に避難せず2階にいたところ、家ごと津波に流され19日後に救出された。判断を誤り、多くの人に迷惑をかけてしまった後悔と、メディアでは奇跡の救出として報じられたことによる世間とのギャップに悩んだ経験を語る。



離れている人を守るために

- 伝えるポイント
・大切な人を守る方法
・当時の避難行動の選択を体験

1月22日(木) 13:30~14:10 中学生

2月12日(木) 13:30~14:30 小学校5.6年生

紺野 堅太 こんの けんた

岩手県釜石市出身。釜石東中学校1年生の時に東日本大震災を経験。「釜石の奇跡」の一人として率先避難を行い、鶴居屋小学校や近隣住民と共に生き延びる。中学校2年時は隣町の中学校の校舎を間借り、3年生は仮設校舎で過ごし、1年毎に校舎が変わることで震災時代を経験。釜石東中学校では語り部活動、大槌高等学校では復興活動に取り組む。愛知県の企業に勤めながら2022年から震災語り部活動を開始。



選べる2つのプログラム

語り部さんと交流しよう!



みんなで一緒に気づき・考えを深め合おう!



令和7年度JRCオンライン語り部LIVE日程

小学校3・4年生

40分プログラム 1月14日(水) 1月29日(木)

11:00~11:40 佐藤 美香さん 菊池 のどかさん
13:30~14:10 佐藤 美香さん 西城 楓音さん

60分プログラム 2月13日(木)

11:00~12:00 高橋 正子さん
13:30~14:30 若生 遥斗さん

小学校5・6年生

40分プログラム 1月15日(木) 1月30日(金)

11:00~11:40 若生 遥斗さん 近藤 日和さん
13:30~14:10 阿部 任さん 近藤 日和さん

60分プログラム 2月12日(木)

11:00~12:00 石川 芳恵さん
13:30~14:30 紇野 堅太さん

中学生

40分プログラム 1月20日(火) 1月22日(木)

時間 13:30~14:10 石川 芳恵さん 近藤 堅太さん
2月4日(水) 2月5日(木)

60分プログラム 2月17日(火) 2月19日(木)

時間 13:30~14:30 西城 楓音さん 菊池 のどかさん

高校生

40分プログラム 1月20日(火) 1月22日(木)

時間 16:00~16:40 田村 孝行さん 阿部 任さん
16:15~16:55

60分プログラム 2月4日(水) 2月5日(木)

時間 16:00~16:40 秋元 菜々美さん 木村 紀夫さん
16:15~16:55

60分プログラム 2月17日(火) 2月19日(木)

時間 16:00~17:00 田村 孝行さん 高橋 正子さん

多くの学校にご参加いただけるよう、回線減のご相談をさせていただく場合がございます。※目安:1クラスにつき1台のパソコン=1回線

40分:各回につき先着50回線まで、参加校の制限なし

60分:各回につき先着50回線まで、先着5校まで

Q いろいろな語り部さんのお話を聞きたいです。複数の日程で視聴してもよいですか。

A 視聴可能です。

Q 対象の日程に参加できません。

A 例えば、都合に合わせて小学校であっても対象をまたいで中学校の日程に参加いただくことも可能です。対象別に言葉遣いを変えていますので、その点はご了承ください。

Q 録画視聴はできますか。

A 語り部さんの意向により、録画配信は行っていません。(第三者にお話の一部分が切り取られて引用されるのを防ぐため)生配信での参加のみ受付となりますので、予めご了承ください。

Q Zoomのアプリがないと視聴できませんか。

A ブラウザからも視聴いただけますが、接続が不安定になる場合にはアプリでの視聴をお勧めします。

Q & A

Q 当日接続がうまくできるか不安です。

A 参加校にメールでお送りするURLに正しくアクセスいただけ、〇月▲日□□□開催予定ですという表示が画面上に出ています。また、当日の配信30分前から入室可能としていますので、早めの接続確認が安心です。

Q 参加中、自校だけ音声が聞こえません。

A インターネット通信の安定している環境での視聴、Zoom上の音声に関する設定をご確認ください。開始前にアナウンスを行なっていますので、その声が届いているかご確認ください。

Q 当日注意することはありますか。

A 子どもたちの様子が語り部さんに見えるように配信中はカメラをオンにしてください。また、雑音が入らないようマイクはミュートにしてください。

お申込みは Microsoft Forms から受け付けます。

(入力ができない場合にはお問い合わせください。)

<https://forms.office.com/r/k8nafM0QYz>



命をつなぐ 未来を拓く